

今年度も残り2か月となりました。子どもたちもそのことを感じ取り、いつもにも増して、張り切って生活しています。特に5歳児は、保育園での残りの日々を大切に過ごしてもらいたいと思います。



## オータムパーティー



10月16日（月）～20日（金）の5日間、園内の廊下やホールに全クラスの作品を展示しました。どのクラスも個性にあふれており、園内全体が美術館に変わりました。あちらこちらに大芸術家の作品が並びます。

「芸術の秋」はどこでもない、ここに充満しました。

送迎の時間では、作品を前に「きれいだね!」「すごいね」等驚きの声があちこちに溢れました。

そんな中、10月19日（木）には、2歳児から5歳児までの子どもたちが、仙台風芋煮作りをしました。材料は、白菜・しめじ・こんにゃく・大根・人参・豚肉。白菜、しめじは手で、こんにゃくはスプーンを使ってちぎり、ゆり組の子はなんと「包丁」で大根と人参を切ります。豚肉を炒めた後、そろった材料を煮込むこと約30分……。いよいよ待ちに待った完成!!

たくさんおかわりをして、あっという間に大きな鍋は空っぽ。

心もお腹もいっぱい……。大満足のオータムパーティーでした!



保育所八幡こぼと園 ばら組（2歳児）担任 工藤 亜沙香

## 運動遊び



初めてのブリッジ!  
できるかなあー? あ〜

先生、見ててね



3歳児ひまわり組、博喜先生の運動遊び!

11月の運動遊びはブリッジに初挑戦! マットの上で仰向けになり、手の向きや手を付く場所を教えてくださいました。すぐにコツをつかんで成功する子、なかなか体が持ち上がらない子、みんな顔を赤くして真剣!

次は、様々な運動用具（マット→鉄棒→ボール→フラフープの）を組み合わせた運動に挑戦です。最初に、博喜先生がお手本を見せると「お〜! すご〜い!」と目が丸くなります。すぐに、「早くやりたい!」とやる気满满!

特に、鉄棒は練習してきたこともあって自信をもって取り組んでいました。楽しい時間はあっという間に過ぎます。「楽しかった〜!!」と大満足の顔をした子どもたちでした。

運動遊びを通して体を動かすことの楽しさはもちろん、安全に楽しむために先生の話をしっかり聞くことの大切さも伝わればいいなと思っています。

保育所八幡こぼと園 ひまわり組（3歳児）担任 中里 己季

新田こばと園では、給食のメニューに、絵本に出てくる内容を積極的に取り入れています。絵本に出てきた食べ物と実際の給食を同じように感じて、食べることの楽しさを膨らませてもらう取り組みです。

# 楽しい給食を目指して ～絵本給食と食育活動～



アムパスマと  
ぎゅっりぼん



実際に絵本に出てくるメニューを食べると、子ども達の間では「絵本と同じだね」「おいしいね」「これかわいいね」などの会話が弾みます。

また、食育活動では、絵本を導入に活用したり、連動して行うことで、より深く絵本の世界に触れ、楽しんで作り、意欲的に食べている子ども達です。

こうした絵本給食や食育活動を通じて、より食べ物に興味を持ち、楽しく食事をして欲しいと思っています。

保育所新田こばと園 栄養士 長廣真由美

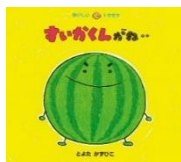
クッキーやロールケーキを、子ども達の大好きなキャラクターにデコレーションしました。



【4歳児すみれ組】



絵本「ピヨピヨおばあちゃんち」に登場するシソジュースを作りました。



【1歳児もも組】

絵本から、すいかに興味津々の子ども達。目の前で切って食べました。

## 子育て支援センター ～サロンとぽっぽの部屋～

新田こばと園で、「お母さん方の心のよりどころとなるような支援をしていきたい」という思いで子育て支援事業に取り組み、20年が経過しました。新型コロナウイルスの流行で活動制限が4年程続き、その中でも子育て中のお母さんとお子さんが遊べる場所の提供を続け、活動内容も変化させてきました。

最近の利用者は、1歳前後のお子さんとお母さんが多くなっています。お子さんの体の動きや遊び方に合うように親子が集う『サロン』は、「赤ちゃん」「はいはい」「とことこ」と同じ位の月齢・年齢で3つのグループに分けています。時間内であれば入退室自由、親子制作等もありますが希望者だけにしました。親子が自分たちのペースで遊べるようにすることを大事にしています。

親子で自由に遊ぶ『ぽっぽの部屋』。月に4回程、時間は午前と午後に分けて支援センターを開放しています。午前は1歳～2歳、午後は0～1歳のお子さんの利用が多い傾向が見られます。昨年5月にコロナが5類となり、それに伴って制限を徐々に緩和し12月から予約不要としました。利用人数も増えていることから利用しやすくなっているのではと感じています。支援センターを利用したお母さん達からは、「ここに来るとその後よくお昼寝をしてくれる」「家族以外の大人と話せて楽しかった」と、お子さん達が遊ぶだけでなく、お母さん方のリフレッシュの場となっているようです。今後も利用者の皆さんの「心のよりどころ」となる支援センターづくりに努めていきたいと思ひます。

保育所新田こばと園 主任保育士（子育て支援担当） 横山美世子



支援室開放



赤ちゃんサロン  
での作品



とことこ・はいはい  
サロン